

ユニット型老健の特徴を活かした 生活リハの提供 ～在宅復帰に向けた支援～

事業所名：介護老人保健施設 アメイズ

発表者名：大澤 淳一

はじめに

- ▶平成28年9月ユニット型老健が開設した。
- ▶ユニット型老健の特徴を加味し、在宅復帰を実現するための視点を持つ事、利用者が役割を持って生活出来る事に着目し、生活リハビリの提供を実施したため、報告する。

目的

- ▶ 意欲的に活動が実施でき、役割を持って生活できる。
- ▶ 生活リハビリを実施することで、在宅復帰に向けた支援と個別ケアの実現を目指す。

対象者

- ▶ 2階2ユニット
計20名の利用者





活動内容

- ▶ 内容：テーブル拭き、コップ洗い、お手拭き配り、枕カバーたたみ等
- ▶ 頻度：1日1回
- ▶ 期間：平成29年3月17日～3月31日
- ▶ 活動の選定方法
リハスタッフが身体面・精神面の評価を実施、方向性や利用者個々の性格なども考慮し、活動内容を選定。

方法①

「役割分担表」

「お仕事ありがとうございますカード」を用いた提供

- ▶ 「役割分担表」に利用者個々の役割を記載し、ユニット内に貼り出し、利用者は個々に確認し、役割となっている活動を行う。
- ▶ 「お仕事ありがとうございますカード」は、役割活動を実施したら、職員から「ありがとう」の言葉を伝えて、カードにチェックを入れる。

方法②

役割分担表

シール貼り		コップ洗い	箱折り
枕カバー たたみ	ひも結び	おしぼり 配り	テーブル 拭き

さん

テーブル拭き

いつもありがとうございます

月日	3/16	3/19	3/21	3/22	3/23	3/24	3/28
	☆	🍎	🍎	🍎	🍎	🍎	🍎
月日	3/27	3/28	3/29				
	🍎	🍎	🍎				

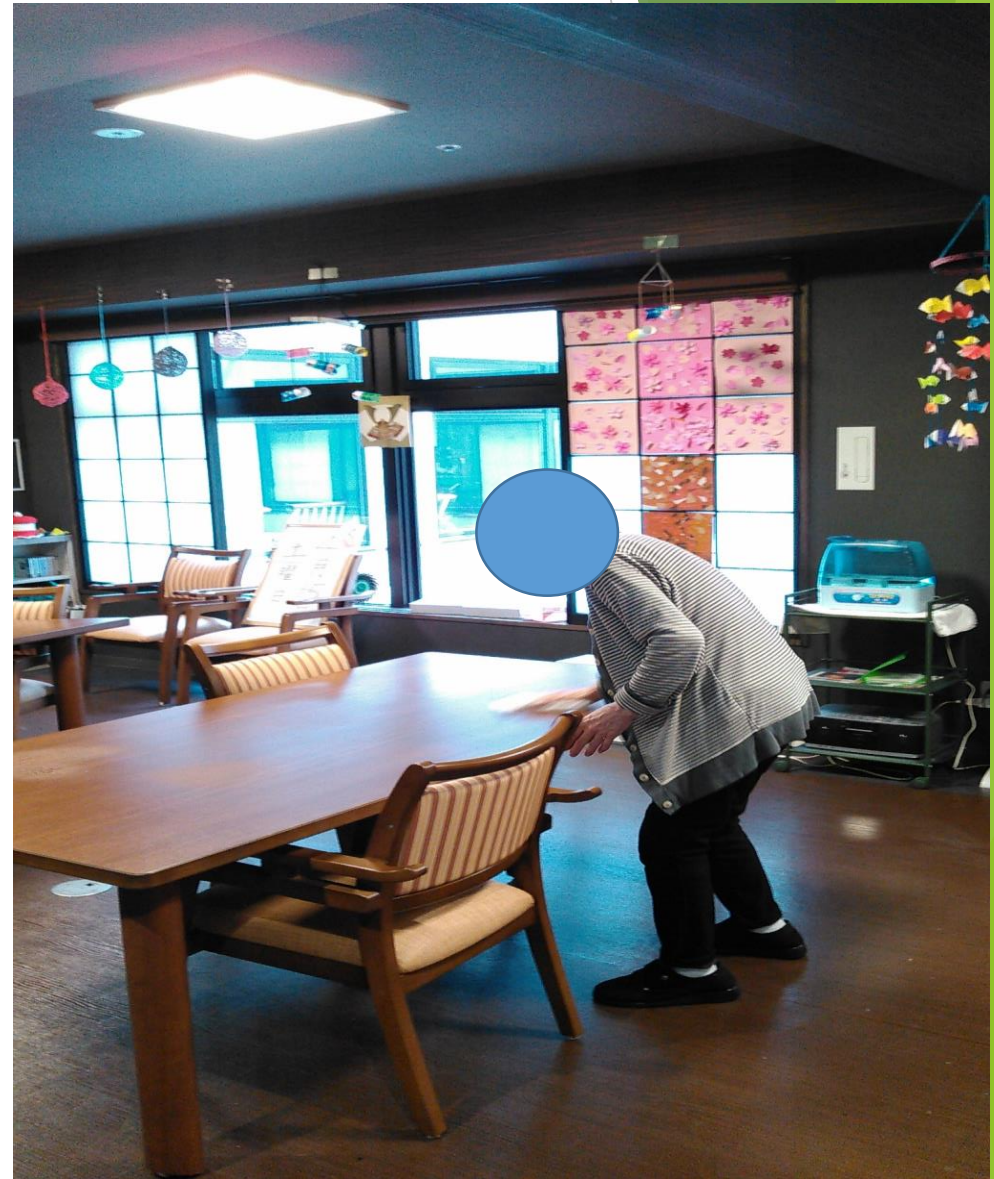
お仕事
ありがとうございます

様

經過①



経過②



経過③

- ▶ 開始当初は利用者より「この表は何？」と戸惑いがあった。
- ▶ 活動に自ら取り組み始める方が出てきた。
- ▶ 職員に「お手伝いする事はある？」と聞いてきた。
- ▶ 他利用者の活動を見て「私も一緒にやりましょう」と、活動に取り組んでいた。

結果

- ▶ 利用者の役割が明確となり、意欲の向上につながった。
- ▶ 在宅復帰予定者は在宅に向けて、意欲的に実行する事が出来た。
- ▶ 職員は生活リハビリに取り組む事で、個別ケアが実施できた。

考察

- ▶ ユニット型老健の環境は、自宅の環境に近く、生活動作が行いやすい。
- ▶ 少人数の環境から個別ケアが行いやすい。

よって利用者個々に決めた活動を実施できたと考える。



今後の課題

- ▶ 在宅復帰者は、この活動以外にも必要な動作や活動があり、支援の検討が必要。
- ▶ 役割に対しては、数名の利用者から負担と感じている方がいた。内容・頻度等を検討が必要。
- ▶ 今後は生活リハビリを個別ケアとして転換できるように、多職種協同で取り組んでいきたい。